



## 2022年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月5日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東  
 コード番号 3660 URL <https://www.istyle.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉松 徹郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 菅原 敬 (TEL) 03(6161)3660  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2022年6月期第1四半期の連結業績(2021年7月1日~2021年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第1四半期	7,784	3.7	△229	—	△238	—	△52	—
2021年6月期第1四半期	7,505	△5.0	△160	—	△206	—	△281	—

(注) 包括利益 2022年6月期第1四半期 △27百万円(—%) 2021年6月期第1四半期 △268百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第1四半期	△0.73	—
2021年6月期第1四半期	△4.29	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第1四半期	22,462	8,098	35.2
2021年6月期	22,235	8,109	35.5

(参考) 自己資本 2022年6月期第1四半期 7,902百万円 2021年6月期 7,902百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年6月期	—	—	—	—	—
2022年6月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,200	26.7	500	—	400	—	300	△20.9	4.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期1Q	74,146,800株	2021年6月期	74,146,800株
② 期末自己株式数	2022年6月期1Q	2,693,567株	2021年6月期	2,693,567株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期1Q	71,453,233株	2021年6月期1Q	65,350,528株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

化粧品業界におきましては、「新型コロナウイルス（COVID-19）」（以下、「新型コロナウイルス」という。）の影響により、消費者の購買意欲の低下や、外出自粛による化粧をする機会の減少、インバウンド需要の蒸発などにより、依然として景況感が厳しい状況にあります。各化粧品メーカーはこの状況を受け、広告媒体のデジタルシフト、EC販売の強化などDX<sup>\*1</sup>を推進していく傾向が強く、これによりプラットフォームとしてメディア・EC・店舗を一体化したサービスを提供する当社グループが享受できる事業成長の機会は、増加するものと見込んでおります。

当社グループは、収益事業であるOn Platform事業およびBeauty Service事業におけるECの成長、ならびに下期から新型コロナウイルスの影響が徐々に収束し国内・海外店舗が復調する前提で計画を策定しており、増収および営業利益の黒字転換を目指しております。

当第1四半期連結累計期間における業績は以下の通りです。

売上高におきましては、4回目の緊急事態宣言発出の影響により店舗が減収したほか、不採算事業の整理・撤退による減収があったものの、On Platform事業の復調ならびにBeauty Service事業のECが成長したことにより、前年同期を上回っての着地となりました。

営業利益におきましては、連結全体における賞与引当金繰入の増加や、On Platform事業におけるソフトウェア償却費の増加等により前年同期比で減少したものの、社内計画通りに進捗しました。

その他、8月に子会社化したGlowdayz社の株式取得に際して発生しました段階取得に係る差益114百万円を特別利益に計上いたしました。なお、同社業績の損益計算書への反映は当連結会計年度の第2四半期を予定しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	7,784百万円（前年同期 7,505百万円 / 前年同期比 3.7%増）
営業損失	229百万円（前年同期 営業損失 160百万円）
経常損失	238百万円（前年同期 経常損失 206百万円）
税金等調整前四半期純損失	110百万円（前年同期 税金等調整前四半期純損失 196百万円）
親会社株主に帰属する四半期純損失	52百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失 281百万円）

※1 デジタルトランスフォーメーションの略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応しデータとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

## ①On Platform事業

当セグメントには、当社が運営するコスメ・美容の総合サイト「@cosme（アットコスメ）」を基盤とした各種サービス（BtoB、BtoC）が属しております。

当第1四半期連結会計期間におきましては、新型コロナウイルスの影響によりクライアントの予算の保守化が継続しておりますが、マーケティングサービス「ブランドオフィシャル」による分析と、その分析に基づいた広告・販促プロモーション施策、当社ECでの販売までの一貫した提案が功を奏し、前年同期比で増収となりました。

営業利益におきましては、ソフトウェア償却費および賞与引当金繰入の増加により減益となりましたが、社内計画通りの進捗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	1,862百万円（前年同期 1,665百万円 / 前年同期比 11.8%増）
営業利益	240百万円（前年同期 営業利益 273百万円 / 前年同期比 12.2%減）

## ②Beauty Service事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme SHOPPING（アットコスメショッピング）」の運営、化粧品専門店「@cosme STORE（アットコスメストア）」や大型旗艦店の運営等、国内における小売業を中心としたサービスが属し

ております。

ECにおきましては、新型コロナウイルスの感染防止を目的とした外出自粛による需要増、継続的なMD強化やキャンペーン施策などにより、前年同期比で売上高20.8%増と引き続き強い成長率を維持しております。

店舗におきましては、2021年7月に発出された4回目の緊急事態宣言の影響により来店客数が減少し、前年同期比で減収となりましたが、営業損失は横ばいで推移しております。

利益におきましては、賞与引当金繰入やシステム運営費の増加等により減益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	4,645百万円（前年同期 4,389百万円 / 前年同期比 5.8%増）
営業損失	35百万円（前年同期 営業利益 6百万円）

### ③Global事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

EC・卸売におきましては、不採算事業の整理・撤退としてマレーシアのEC運営会社を前期第3四半期に譲渡しており、そのため前年同期比で減収となりました。

香港の店舗におきましては、現地における新型コロナウイルスの影響が依然として続いており、当第1四半期連結累計期間に2店舗を閉店しましたが、既存4店舗が回復したことにより売上高は前年同水準での着地となりました。

利益におきましては、前々期から注力しております不採算事業の整理・撤退によって収益性が改善され、赤字幅を縮小しての着地となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	1,053百万円（前年同期 1,163百万円 / 前年同期比 9.5%減）
営業損失	35百万円（前年同期 営業損失 42百万円）

### ④その他事業

当セグメントには、美容部員を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

人材派遣事業におきましては、新型コロナウイルスの影響を受けるも、前年同水準での着地となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	224百万円（前年同期 288百万円 / 前年同期比 22.1%減）
営業利益	12百万円（前年同期 営業損失 3百万円）

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産の部

当第1四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ226百万円増加し、22,462百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ509百万円減少し、12,916百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末は受取手形及び売掛金）が180百万円増加し、商品が144百万円増加したものの、現金及び預金が858百万円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ735百万円増加し、9,546百万円となりました。これは主に、投資有価証券が422百万円減少したものの、のれんが1,081百万円増加したこと等によるものであります。

### ② 負債の部

当第1四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ237百万円増加し、14,364百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ421百万円増加し、6,302百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が511百万円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ183百万円減少し、8,062百万円となりました。これは、主に長期借入金が200百万円減少したこと等によるものであります。

③ 純資産の部

当第1四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ11百万円減少し、8,098百万円となりました。これは主に、利益剰余金が21百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月16日の決算短信で公表しました当連結会計年度の業績予想は、新型コロナウイルスの影響が第2四半期中に収束することで同期間から業績が改善することを前提としております。しかしながら、その前提と今後における実際の社会・経済情勢が相違し、業績予想と実績に乖離が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,205	6,347
受取手形及び売掛金	2,707	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	2,887
商品	2,146	2,290
営業投資有価証券	893	896
その他	540	569
貸倒引当金	△2	△8
投資損失引当金	△65	△65
流動資産合計	13,424	12,916
固定資産		
有形固定資産	1,932	1,818
無形固定資産		
のれん	384	1,465
ソフトウェア	2,663	2,576
その他	282	326
無形固定資産合計	3,329	4,367
投資その他の資産		
投資有価証券	1,338	916
敷金及び保証金	1,845	1,847
その他	367	599
投資その他の資産合計	3,550	3,362
固定資産合計	8,811	9,546
資産合計	22,235	22,462

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,194	1,706
短期借入金	1,500	1,500
1年内返済予定の長期借入金	965	800
未払法人税等	95	204
賞与引当金	94	146
事業構造改善引当金	3	2
関係会社整理損失引当金	45	38
その他	1,985	1,908
流動負債合計	5,881	6,302
固定負債		
長期借入金	8,156	7,956
その他	89	106
固定負債合計	8,245	8,062
負債合計	14,126	14,364
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,756	4,756
資本剰余金	3,937	3,937
利益剰余金	△443	△463
自己株式	△280	△280
株主資本合計	7,970	7,949
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59	△51
為替換算調整勘定	△8	3
その他の包括利益累計額合計	△67	△48
新株予約権	59	45
非支配株主持分	148	152
純資産合計	8,109	8,098
負債純資産合計	22,235	22,462



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2021年9月30日)
売上高	7,505	7,784
売上原価	4,010	4,130
売上総利益	3,495	3,654
販売費及び一般管理費	3,656	3,883
営業損失(△)	△160	△229
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	32	4
為替差益	—	4
債務免除益	2	4
その他	8	2
営業外収益合計	42	13
営業外費用		
支払利息	19	13
為替差損	53	—
投資事業組合運用損	2	3
持分法による投資損失	14	2
その他	0	3
営業外費用合計	88	22
経常損失(△)	△206	△238
特別利益		
新株予約権戻入益	10	14
段階取得に係る差益	—	114
特別利益合計	10	128
税金等調整前四半期純損失(△)	△196	△110
法人税等	80	△61
四半期純損失(△)	△276	△49
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	3
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△281	△52

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△276	△49
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	9
為替換算調整勘定	△2	13
その他の包括利益合計	8	22
四半期包括利益	△268	△27
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△272	△32
非支配株主に係る四半期包括利益	4	5

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。また、広告に係る製作費について、従来制作物の納品時に一時点で収益を認識しておりましたが、広告の掲載にあわせて一定期間にわたって計上する方法に変更しております。さらに、他社が運営するカスタマー・ロイヤリティ・プログラムにかかるポイント負担金について、従来は販管費及び一般管理費として計上しておりましたが、ポイント負担金を差し引いた金額で収益認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は98百万円減少し、売上原価は6百万円減少し、販売費及び一般管理費は61百万円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ31百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は31百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルスの今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service 事業 (百万円)	Global 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	1,665	4,389	1,163	288	7,505	—	7,505
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41	3	6	1	51	△51	—
計	1,707	4,392	1,169	289	7,557	△51	7,505
セグメント利益又は損失 (△)	273	6	△42	△3	235	△395	△160

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△395百万円は、セグメント間取引消去2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△397百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					調整額 (注) 1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service 事業 (百万円)	Global 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
一時点で移転される財	—	4,645	960	3	5,608	—	5,608
一定の期間にわたり 移転される財	1,862	—	93	221	2,176	—	2,176
顧客との契約から生じる収益	1,862	4,645	1,053	224	7,784	—	7,784
外部顧客への売上高	1,862	4,645	1,053	224	7,784	—	7,784
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	△0	1	2	89	△89	—
計	1,947	4,645	1,054	227	7,873	△89	7,784
セグメント利益又は損失 (△)	240	△35	△35	12	183	△412	△229

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△412百万円は、セグメント間取引消去1百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△412百万円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、Glowdayz, Inc. の株式を追加取得し連結子会社化したことにより、「Global事業」セグメントにおいてのれんが1,092百万円増加しております。なお、のれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。